

優秀賞

おうち美術館

日本航空高等学校石川 1年 岩瀬 七海

私は幼い時、絵を描くときは母が買ってくれた「らくがきちょう」を使っていた。動物のイラストが描かれた一般的なものより二倍以上の大きさがあるA三判。普通なら十分すぎる大きさのはずだが、当時の私は気に入らなかったのか、よく

「だって紙が小さくてたくさん描けないし、いっぱい描こうとして小さくするとクレヨンでつぶれちゃう〜」

と文句を言っていたそうだ。

あるとき私は事件を起こした。部屋の壁に落書きをしてしまったのだ。クレヨンで、大胆に。壁一面に動物、魚、木などなど……これだけのことをしてたら多くの母親は怒るだろう。でも私は怒られるどころか褒められた。私は全く覚えていないが母ははつきりと覚えていた。なぜ怒らなかったのか聞くと母はこう言った。

「絵を描いていて怒る親がどこにいる！壁だろうと、らくがきちょうだろうと、子どもが作ったものは全部作品なんだよ。昔の人だって壁に絵を描いたんだから一緒でしょ？」

私は驚きつつ母の心の広さに感動した。確かに、洞窟や寺院、教会の壁には絵が描いてあり「壁画・天井画」として世界遺産になっているものもある。私は子どもが描いた絵を世界遺産の壁画と一緒にしているのか？と不思議に思ったが、それだけ私が描いた落書きを作品として、大切にしてくれたと思うと嬉しくなった。

そのときからなのか、私は絵を描くのが好きだ。授業で描いた絵が展覧会に出展されたり賞を取ったりもした。母は必ず展覧会まで出展された作品を見に行ってくれた。返却されるとすぐにリビングの壁に飾ってくれる。私の家の壁はちょっとした美術館だ。

子どもの想像力をA三判のらくがきちょうにとどめておくのはもったいない。だから私が母になったら、壁に大きな模造紙を貼って大きなキャンパスを作っただけようと思う。